

## ちばセンセイの健康ワンポイントアドバイス

10月に入り、一気に日が短くなってきました。朝晩の冷えもより一層強くなってきました。ウォーキングされている方も多いと思いますが、暖かい格好をして出かけてくださいね。

今回も逆流性食道炎の治療についてです。最も多いのは、胃酸の逆流による逆流性食道炎なので、胃酸分泌を抑制する制酸剤を処方することが多いです。制酸剤も日進月歩です。20年以上前は、それほど強力な制酸剤がなかったので、胃酸過多による胃潰瘍や十二指腸潰瘍で手術をすることもたびたびありましたが、今は余程のことがない限り、胃十二指腸潰瘍で手術をすることはありません。

話しがずれました。逆流性食道炎の話です。逆流性食道炎の第一選択薬は制酸剤で、プロトンポンプ阻害剤というタイプのものを使うことが多いです。よく効くお薬なのですが、投与日数に制限があります。従来プロトンポンプ阻害剤は6週間、もっとも新しいタイプのものは4週間という制限があります。一度止めざるを得ないのですが、止めて悪化した場合は、少ない量にして長期投与ができる場合もあります。

副作用が多いという訳ではありませんが、長期に服用していると胃に「良性の」ポリープができたり、膠原線維性大腸炎を起こして慢性の下痢を起こすことがあります。

残念ながらPPIに限らず、薬に副作用はつきものです。週刊誌等に「薬害」と出ることもあるのですが、メリット（効果）とデメリット（副作用）があります。おかしいと思ったら、自己判断で止めるのではなく、まずは処方している医師に相談することです。デメリットを上回るメリットがある場合には、薬を続けることもあるのですが、他のクスリに替えるという選択肢もあります。基本的には、必要で処方しているクスリです。勝手に止めるデメリットは大きいものだと考えてください。

先月号の文末に、秋から胃カメラを開始すると書きました。ありがたいことにお問い合わせがたくさんあります。今月末か来月頭ぐらいから開始したいと考えています。